

混合メタファーについて

丁昊天（名古屋大学大学院生）

1. はじめに

混合メタファー（mixed metaphor）は、単一のメタファーをもって説明できないメタファー表現の連続使用を指す。悪い文章として避けるべきものとされてきた。この現象が意味の通る、時には効果的な言い回しとして受け入れられることもあるという事実注目し、混合メタファーの成立条件を考察する研究が相次いでいる（Kimmel, 2010; Gibbs et al.2016;Sullivan, 2019）。ある程度の知見が蓄積されているものの、それらを統合する試みはいまだに見当たらない。本研究はそうした実情を踏まえ、朝日新聞データベースから収集した具体例を用いて考察を行い、混合メタファーの成立条件に関して先行研究によって提示された様々な分析視点を階層モデルとして整理する。なお、本研究では混合メタファーの成立条件を、①混合メタファーが混合メタファーとして意識され、そこにおける複数のメタファー表現の意味統合が促進されるための条件、②混合メタファーが混合メタファーとして意識されずに理解されるための条件と定義する。

2. 先行研究

先行研究では、混合メタファーの成立条件を以下3つの視点から考察している。

1. 内部結合要因（internal binding）：混合メタファーに参加するメタファー表現が意味的に矛盾なく統合して理解される概念レベルの要因のことである。Lakoff and Johnson（1980：92-95）では、混合メタファーの成立可能性は参加するメタファー間の一貫性、具体的には共有する含意の有無にかかっているとされる。
2. 外部結合要因（external binding）：参加するメタファー表現の意味統合を促進する表現レベルの要因のことである。Kimmel（2010）とSullivan（2019：48-68）は、近接性、反復性、新奇性、類似性のいずれかに該当する場合、複数のメタファー表現が混合メタファーとして意識されやすくなり、内部結合を行って理解されることになることを指摘している。
3. 談話的ストラテジー：混合メタファーにおける複数のメタファー表現を分けて処理するように、読み手/聞き手を導く言語的手段である。Sullivan（2019：154-168）は、具体的に「XはAではなく、Bだ」という「対比構造」と「XはA、YはB」と形式化できる「目標領域明示」の2種類を記述している。

混合メタファーの成立条件として、内部結合要因に対して外部結合要因が先行し、外部結合要因に対して談話的ストラテジーが先行することは、Kimmel（2010）とSullivan（2019）において言及されている。しかし、外部結合要因に該当しない場合での談話的ストラテジーの使用が内部結合要因レベルの意味衝突を回避することができるか、つまり外部結合要因という中間レベルを飛び越えての優先性があるのか、また、何故かような優先順序が存在しうるのは検討されていない。

3. 混合メタファー成立条件の統一モデル

こうした先行研究の不備を踏まえ、本研究ではKövecses（2016）の「メタファーの活性化レベル」とMüller（2008）による「注意の焦点と混合メタファー」に関する見解を取り入れ、内部結合要因、外部結合要因と談話的ストラテジーの関係について検討した。結果として、類似性、新奇性を判断するのに概念レベルの知識にアクセスする必要があるという意味で、両者が内部結合を引き起こす契機になりうることと、「XはAではなく、Bだ」と「XはA、YはB」という構造が意図せずとも、異なるメタファー表現を異なる節に配置して隔てることが外部結合要因である近接性に配慮した操作にあたることを指摘し、内部結合要因、外部結合要因と談話的

しかし、(1)のように混合メタファーを利用した同記事態の同じ側面の概念化が次の(2)には見られない。(2)において、括弧のつけられた内的独白は「孤軍奮闘するうちにそう思い詰めるようになった」結果として提示されており、＜旅＞を介して仕事に改善の兆しが見えず、苦しい状態ばかり続いていることを表す。先行する＜戦争＞のメタファーと、この＜旅＞のメタファーは、行動と結果の関係にあるわけである。このような混合メタファーにおいて、関与する複数のメタファー表現の意味衝突回避にあるいは無意識的に取られる方法は「補助記号による仕切り」と表現できると考えられる。(2)の文脈に当てはめて説明すると、括弧の使用により、「トンネル」のメタファーは内的独白として地の文である「孤軍奮闘」から区別され、1つの完結したメタファーとして理解される。その結果＜旅＞と＜戦争＞の両方に当てはまるイメージの構築は回避されることになる。

(2)「時間がない」を口癖に、1年以上孤軍奮闘するうちに「このトンネルをいつになったら抜けられるだろう」と思い詰めるように、(2023. 12. 20)

付言すれば、「対比構造」が意図せずとも、異なるメタファー表現を隔てることを引き起こすという点で近接性と無関係ではないように、ここの(2)に見る「補助記号による仕切り」も極小ではあるが、メタファー表現間の距離を伸ばしていることは確かであり、この点で「対比構造」と同じ原理に基づいていると言える。

4. 2 コンテキストによる起点領域選択理由の暗示

混合メタファーに起きかねない衝突は、根本的にはそこで利用されるメタファー表現の起点領域間の矛盾にはかならない。外部結合要因に該当する表現の使用を注意深く避けることも、「対比構造」、「目標領域明示」及び上述した「補助記号による仕切り」というような談話的戦略も、根本的には起点領域に読み手の注意の焦点が移動することを回避する手段と位置付けることができる。その点で、「コンテキストによる起点領域選択理由の暗示」は他の戦略と性質を異にする。何故ならば、当該方法は注意の焦点をあえて起点領域に向けさせることで、読み手が複数のメタファー表現を分けて処理することを実現するからである。下掲(3)の文脈に当てはめていうと、「一本釣り作戦」はある程度慣習化が進んでおり、本来ならば括弧をつけることはないはずである。にもかかわらず、「一本釣り」という部分だけいわば切り取られる形で強調されていることに触発され、注意の焦点が当該表現に移動する可能性が高まる。すると、「一本釣り」は記事内容と直接関連する漁業の連想によって選ばれたものであるということに気づかされる。つまり、「一本釣り」の使用に理由があることをほのめかすことで、「一本釣り」を処理してから、それが後続させている「作戦」を処理するということを実現しているわけである。また、(3)は「一本釣り」がそれにつけられた括弧により、後続する「作戦」から隔離されている点で「補助記号による仕切り」の具体例と見ることもでき、「補助記号による仕切り」と「コンテキストによる起点領域選択理由の暗示」の併用可能性を示している。

(3) 三宅村や三宅島漁協が担い手の確保に力を入れる。本気の若者を「一本釣り」する作戦だ。(2016. 10. 20)

(3)における「一本釣り」と「漁協」は慣習的な連想関係にあるが、コンテキストによる起点領域選択理由の暗示がそれに限られるわけではないことに注意したい。例えば、次(4)において、括弧がつけられた「二人三脚」と先行する「孤軍奮闘」の間に安定した連想関係が存在するとは言い難い。その使用はキャラクターが文字通りの「二人」に増えたという事実から閃きを得たものであることが先行文脈を参照すると分かる。

(4) 島根県の隠岐諸島・西ノ島町のキャラクター「活イカ活っちゃん」に、弟が誕生した。これまで「たぶん女性」という活っちゃんが孤軍奮闘していたが、今後、「二人三脚」で町の活性化に奔走する。(2014. 6. 19)

(3)と比べ、(4)は用例のよって立つコンテキスト的動機付けが違うとはいえ、両者は同じ方法によって混

思われる箇所には点線を施している、括弧内に記すのはその出版年月日である、

合メタファーとして成立している．というのは，コンテキスト的要因に動機付けられたメタファー表現がある場合，当該表現とコンテキストの関連を確かめるにはその表現を慣習的な意味として理解すること以上の処理を必要とし，それにより，連続して使われているメタファー表現は実質的に，処理深度の異なる 2 つのグループ（コンテキストとの関連を特別に確認する必要があるグループとそうでないグループ）を形成することが含意され，混合メタファーに属するメタファー表現を分けて処理する目的が達成されるということである．

4. 3 まとめ

本節では混合メタファーを成り立たせる談話的ストラテジーについて，Sullivan（2019）が提示した「対比構造」と「目標領域明示」のほか，「補助記号による仕切り」と「コンテキストによる起点領域選択理由の暗示」という 2 種類が観察されることを朝日新聞データベースから収集した用例を挙げて確認し，各ストラテジー間の関係を論じた．本節の内容を踏まえ，前掲図 1 を修正すると次図 2 のようになる．

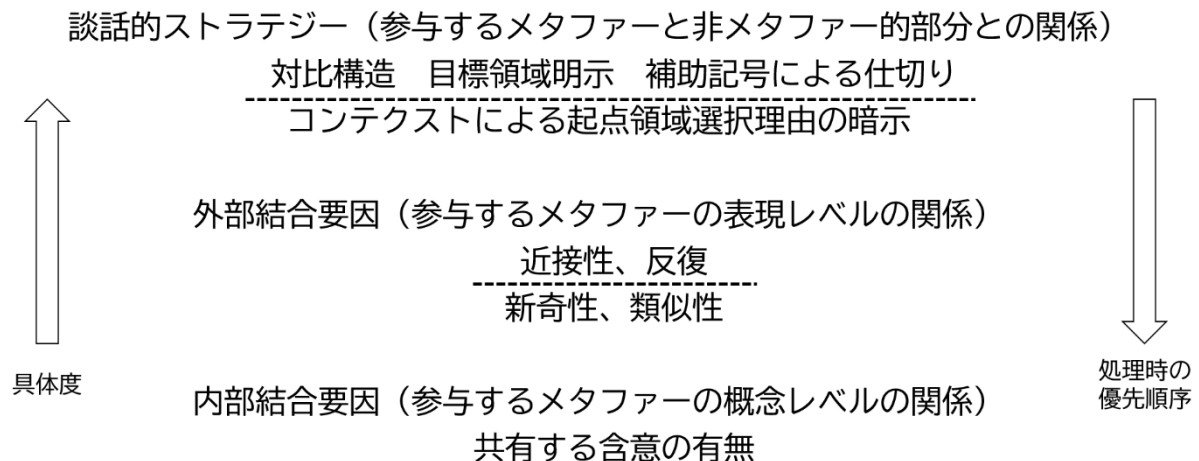


図 2 混合メタファー成立条件の統一モデル

5. おわりに

本稿では混合メタファーが常に表現の誤りというわけではなく，意味の通る，時には効果的な言い回しと認められるための成立条件に関する先行研究を概観した上で，その知見を統合し，内部結合要因，外部結合要因と談話的ストラテジーという 3 つの階層を想定した階層モデルを提案した．そして，階層間の連続性と優先順序について論じ，混合メタファーの成立条件のより十全な記述には談話的ストラテジーのレベルに関する実証的調査が必要であることを述べ，朝日新聞データベースから収集した用例をもとに，Sullivan（2019）が提示した「対比構造」と「目標領域明示」のほか，「補助記号による仕切り」と「コンテキストによる起点領域選択理由の暗示」という 2 種類のストラテジーが観察されることを確認し，混合メタファーの成立条件である談話的ストラテジーの実現形態の多様性と共通性を示した．

参考文献

- Karen Sullivan. (2019). *Mixed Metaphors : Their Use and Abuse*. Bloomsbury USA Academic.
- Kimmel, M. (2010). Why we mix metaphors (and mix them well): Discourse coherence, conceptual metaphor, and beyond. *Journal of Pragmatics*, 42, 97–115.
- Kövecses, Zoltán. (2016). ‘A View of “Mixed Metaphor” within the Conceptual Metaphor Theory Framework’. In *Mixing Metaphor*, edited by Raymond W. Gibbs Jr, 3–16. Amsterdam and Philadelphia, PA: John Benjamins.
- Lakoff, George and Mark Johnson. (1980). *Metaphors We Live By*. Chicago, IL: University of Chicago Press.
- Müller, Cornelia. (2008). *Metaphors Dead and Alive, Sleeping and Waking -A Dynamic View-*. University of Chicago Press.
- Pragglejazz Group. (2007). MIP: a method for identifying metaphorically used words in discourse. *Metaphor & Symbol* 22, 1–39.